

日本環境教育学会「原発事故後の福島を考える」プロジェクト 第1次調査

報告書

1) 日 時：2016年6月10日（金）～12日（日）

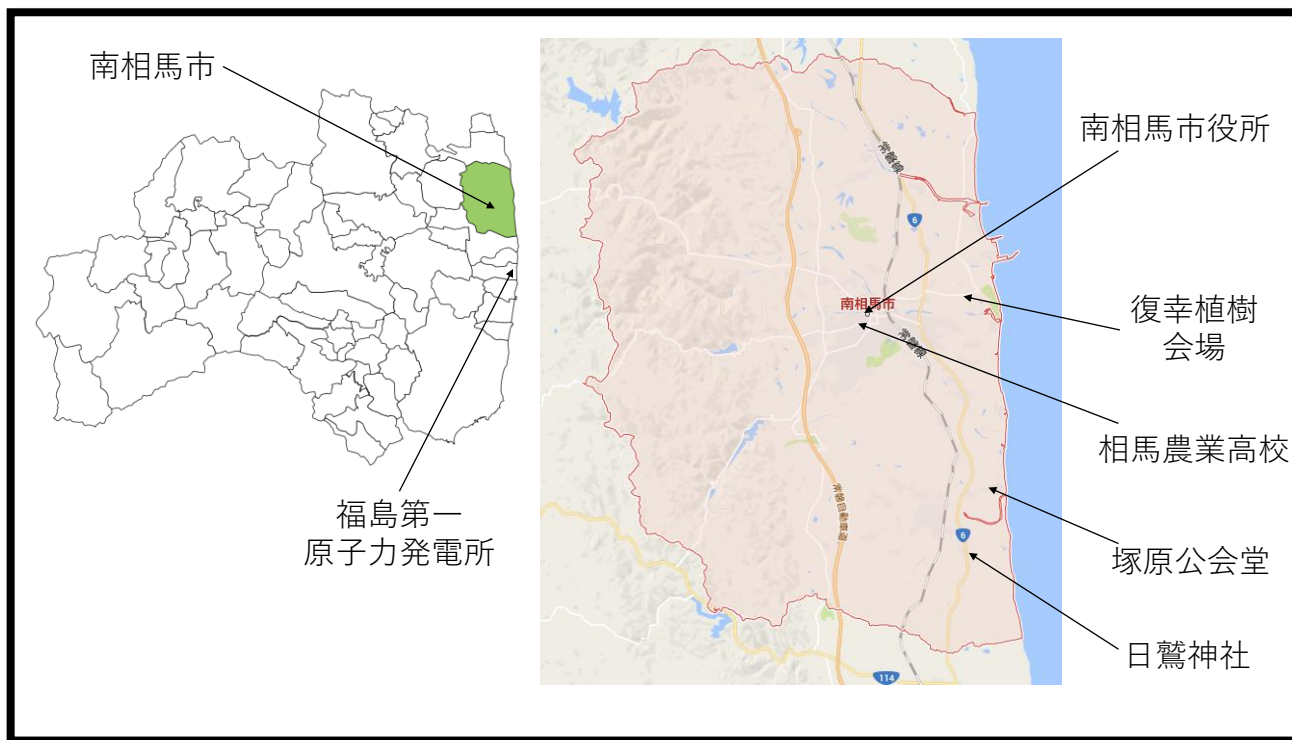
2) 場 所：福島県南相馬市小高区ほか

3) 参加人数：17名

4) 概 要

今回は第1次調査として、震災以降に本学会とご縁の深い南相馬市を訪れ、福島の「今」を知りつつ、毎年2回の頻度で最低5年間訪問することを前提とした表敬訪問をおこなった。南相馬市役所では市長・教育長にお話を伺い、福島県立相馬農業高等学校では高校生の復興活動報告や教員とのディスカッションを行った。また、小高区の日鷲神社・西山典友宮司や、鹿島区のコミュニティサロン「癒しのサロン」の発起人・今野由喜氏を訪問し、聞き取り調査や意見交換を行った。

5) 訪問地 MAP



6月10日（金）1日目

16:00 表敬訪問（福島県南相馬市役所）



教育長のお話



市長を囲んで

阿部貞保教育長からは主に震災当時から現在における南相馬市内のことについてお話いただいた。震災当時は30キロ圏内には物資が届かなかったり、タンクローリーが置き去りにされたそうだ。7月12日には小高区のほぼ全域と原町区の一部地域の合計1万人以上の住民に対して避難指示が解除されるが、住民が南相馬市に戻るのもそう簡単なことではない。また、原発からちょうど浪江－小高区間が10km、小高区－原町区間で20km、そして原町区－鹿島区間が30kmのエリアになっており、一つの市のなかでエリアによって避難指示の出方や賠償・対応などが異なっているのも現状である。2017年4月には統廃合を経て小学校も再開予定とのこと。

続いて桜井勝延市長からは市内の現状や今後についてお話いただいた。震災によって複雑な状況に直面していることを前向きに捉え、市長として年代・職場など様々なステージの課題を解決し、住民へ安心感や生きる喜びを与えたいと話された。また今後は市民を安心させるべく放射線教育に注力し、子どもが自発的に学べる・生き活きとくらせる環境づくりに取り組んでいきたいとのこと。3年前に設立した、市内全体をフィールドとした「みなみそうま復興大学」のお話も伺った。

6月11日（土）2日目

9:00～ 小高区日鷲神社（福島県南相馬市）



西山宮司のお話



集合写真

西山典友さん（日鷲神社宮司）に、日鷲神社の由来や震災直後から現在までの日鷲神社の状況および活動内容と合わせて、地震発生時から津波・原発事故を経て避難するまでの西山さんの体験談を語っていただいた。特に、被災後のコミュニティについては、小高地区はもともと3世代で暮らす家族が多かったが、震災を機にバラバラになり、それが元に戻る見通しが無いという。さらに、各家族の避難先

も把握することが困難なため、コミュニティとして避難者の人をまとめていくことの難しさについて話してくださった。

13：30～ 福幸植樹会場（福島県南相馬市原町区泉前向 722）



藤原先生と農業クラブの生徒さん



調査研究の様子

相馬農業高校・農業クラブによる植樹園（福幸植樹会）の調査研究に同行し、植樹園の成り立ちや今後などの聞き取り調査をした。調査を担当したのは藤原先生と女子生徒6名。福幸植樹会は植樹を通じた世代間交流やボランティアとの交流の拠点となっている。管理・調査は農業クラブにより実施されている。植樹種はハマナスを中心としてクコ、ユズ、アキグミ、フサスグリ、ナツハゼ、シーベリー、ミカンである。収穫された果実は農業クラブによる加工品作りが行われており、既にハマナスを使用したジャムやお茶の試作品が完成している。3月に開催された南そうま福幸植樹会には約120名近くの参加者と一緒に、植樹やウッドチップの敷詰めなどを行なった。

6月12日（日）3日目

10：00～12：00 福島県立相馬農業高等学校（福島県南相馬市原町区三島町1丁目65）



生徒による発表



農業クラブのみなさん

相馬農業高校は、震災後、地域と共に様々な活動に取り組んできており、その内容について**生徒による活動報告**を受けた。当日は、3つのグループ発表（南そうま福植樹会、油菜ちゃん、苗生産技術の確立）、と1件のプロジェクト発表（相馬農業高校の農業クラブの概要）があった。また、意見発表では、生徒自身の震災の体験に引き付けながら、生産科・食品科における学びを卒業後にどのように活かしていくかなどについて、3名の3年生が表明した。それぞれの発表の後には、質疑応答が設けられ、フロアから活発な意見やアドバイスがなされた。なお当校は、農業クラブの県大会を今週の木曜日に控え、当日はそのための発表練習であった。また、休憩時間には、昨日に訪問した福幸植樹園で採れる、ハマナスの花弁を使用したお茶をいただいた。

13：00～14：15 小高区塚原公会堂（福島県南相馬市小高区塚原沼ノ上 65）



今野さんのお話



小高区の一部の現状

今野由喜さん（小高区塚原行政区区長・NPO 法人つながっぺ南相馬理事長）より、はじめに被災地復興の現状についてご説明いただいた。近々の活動としては、来月7月12日より小高区の避難指示解除に伴い、帰ってくる人たちへのサポートと町の賑わいを取り戻すための活動に重点を置く予定だという。また、来年4月以降に再開する小中学校を見据えて、震災前より行っていた地域の生きもの調査（田んぼの用水掘り周辺）を、将来的に再開したいといった思いも伺った。また、震災直後の今野さんの体験として、津波に飲まれたときのことや、目の前で亡くなった住民のこと、原発事故のことなど、どれもリアルなお話を伺った。質疑応答では、例えば「避難指示が解除されたときに、どのぐらいの住民が帰ってくるか」、住宅に対する「保証」の問題などの世知辛い内容にも丁寧に答えいただいた。

14：30～14：45 癒しのサロン（つながっぺ南相馬）



癒しのサロン看板



建物外観

最後に、つながっぺ南相馬が小高駅前通りで運営するコミュニティサロンを視察した。このサロンには、主に仮設住宅に住んでいる方々が来られ、休んだり、利用者同士の交流の場となったり、カルチャー教室が開かれたりしている。また、3ヶ月に1度、味の素の協力で大きな場所を借りたプログラムを開催することもある。サロンの利用者にとっては、新しい人に出会ったり懐かしい人に出会ったりと、交流の意味合いが強い。また、当サロンの運営費は、市の支援金を活用しており、昨年12月4日に民家を改修し、活動を行っている。代表の今野さんが、避難解除前に小高を拠点に何か始めないといけないといった思いから、小高に帰ってきた人が交流できる場として進めてきた活動である。

※後記：避難指示解除に伴い2016年7月16日(土)に「陽だまりサロン～紅梅～」として本格オープンした。市内外の方々による交流や学びの拠点だけでなく、オフィス機能も充実していることから、小高区復興の加速に向けた多様な利活用が期待される。